

令和4年度 兵庫県立川西北陵高等学校 学校評価

1 スクール・ミッション

「克己 協調 創造」の理念のもと、己に打ち克つ厳しさと、異なる価値観や立場の他者と協力し調和する力や、未来を創造する力を備え、自らの志を実現しようと努力し社会に貢献できる人材を育成する。

2 スクール・ポリシー（三つの方針）

育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

- 生活訓「礼を正し、場を清め、時を守る」に基づき、状況を判断し行動できる力を育成します。
- 多様性を尊重して他者と協働し、社会の変化に柔軟に対応しながら、未来を切り拓いていく力を育成します。
- グローバルな視点で、地域の課題解決に取り組みながら社会貢献できる力を育成します。
- 自分の未来を創造し、自己実現できるように職業観や進路意識を育成します。
- 自分の考えや思いを他者に伝えるための表現力を育成します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

- 学年制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えることができるよう、共通の教科・科目を中心とした教育課程を編成しています。
- すべての教科において、主体的・協働的な学び、思考力・判断力・表現力の育成を重視します。
- 基礎力の定着及び応用力の伸張を図るため、「少人数授業」等のきめ細かな学習指導を行います。
- ICT 機器を積極的に活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を推進します。
- 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、興味関心に対応した多様な進路実現を支援します。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

- 学校生活全般に積極的に取り組み、自らの目標や進路の実現に意欲のある生徒を募集します。
- グローバル社会や地域社会で貢献、活躍したいと考えている生徒を募集します。
- 礼儀やマナーを大切に、思いやりの心をもって他者を理解し、協働することに意欲がある生徒を募集します。

4 総合的な関係者評価

●スクール・ミッション、スクール・ポリシーが策定され、学校経営方針が分かりやすくなった。  
 ●川西北陵高校と地域とのつながり、協働の取り組みが実を結んできている。今後も地域行事の企画段階から関わる等、より主体的な活動を期待する。  
 ●「3自己評価」について、コロナ禍で実施できなかった項目が改善された。  
 ●学校体育施設開放事業も再開され、感謝している。今後も地域に開かれた学校であってほしい。

3 自己評価

評価項目	主な取組	達成状況		取組状況・改善方針	
		取組	総合		
(1) 自立して未来に挑戦する態度の育成	ア キャリア力の育成	①地域と連携した職業人インタビュー	B	B	○職業人インタビューの対象職種が増え、広範囲になり生徒の希望に合った内容になっている。社会性の育成にも効果を挙げることができた。
		②キャリアプランを考える進路指導	B		
		③大学・専門学校等の体験講習	B		
		④進路について考える講演会	A		
	イ グローバル力の育成	①世界に視野を広げる講演会	B	B	○グローバルな活躍をされている方から直接話を聴くことで、より世界に視野を広げられた。 ○西豪州高校生との交流はコロナ禍で中断しているが、新たな方向性を模索する契機になった。
		②西豪州高校生との相互交流訪問	B		
		③生徒による西豪州文化の紹介	B		
	ウ 探究と表現類型の活動	①コミュニケーション力を育む体験活動	B	A	○探究と表現類型は、自立性や挑戦力の育成に大きな成果を上げ、保護者や地域の理解も進んでいる。校内でのアナウンスを強化する。 ○取組を普通類型にも拡充し、インタビュー以外の取組で成果を挙げることができた。生徒の達成感、自己有用感を育成できた。
		②JICAと連携した異文化理解	A		
		③日本の文化等を発信する英語発表	B		
		④地域課題の解決に取り組む体験活動	A		
		⑤学びの成果を発信する発表会	A		
(2) 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 知識・技能の習得	①習熟度別少人数授業(数・英)	B	B	○小テストの実施について、その意義を生徒に考えさせ、主体的に取り組ませる。 ○家庭学習課題、長期休業中の補習について、生徒の主体的な取組が課題。実施に応じた内容、分量となるよう、学年ごとに総合的に検討する。 ○検定試験の受験者は増加したが、大学入試制度変更に伴い、受験の意識付けが課題である。
		②SHR(朝礼)での小テスト(国・英)	A		
		③週末の家庭学習課題(国・数・英)	B		
		④成績不振者への面談・補充	B		
		⑤長期休業中の補習(国・社・数・理・英)	B		
		⑥検定試験の学校受験(国・英)	B		
	(4) 思考力・判断力・表現力等の育成	①授業内容の精選と発展的内容の取入れ	B	B	○タブレットを活用した授業について、ICT活用能力向上と授業作りを試行錯誤した。主体的な深い学びにどう結びつけるかが課題である。 ○各教科での連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を進める。
		②主体的・対話的で深い学び(全教科)	B		
		③言語活動や表現力を重視した総合学習	B		
	(7) 学びに向かう力・人間性等の涵養	①評価規準・シラバスの公表	B	B	○生徒による授業評価は、一部科目から全科目に拡充した。更に活用するため、全授業での実施や評価結果の統計処理等の方策を検討する。 ○調査前、中以外の日常の家庭学習の定着を図る。
		②生徒による家庭学習の記録	C		
		③生徒による授業評価(全教科・全授業)	A		
(2) 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 克己心・協調性・創造力の育成	①校訓・生活訓に基づく人間教育	B	B	○学校行事全般について、生徒が主体として、責任感や自負心を持って取り組んでいる。 ○「1年部活デー」を活用し、生徒の健康管理、時間管理能力の育成を進める。 ○生徒主体のオープン・ハイスクールを実施することにより、生徒も学校に誇りを持つようになった。 ○コミュニケーション能力をあらゆる場面で育成していきたい。
		②年間指導計画を立てたHR活動	B		
		③生徒会が主導する文化発表会	B		
		④自主的・自発的な部活動	B		
		⑤芸術文化に親しむ鑑賞会	B		
		⑥学校いじめ基本方針の改定・実施	B		
	(4) 社会性の育成	②情報モラル等、新たな課題に係る講演会	B	B	○いじめ対応の基本方針について、年度当初に確認したことで職員意識が高まった。 ○情報モラルの講演会は実施されているが、トラブルは発生している。継続した指導を実施する。 ○危機管理マニュアルの見直しにより、毎日の生活の中での防災・防犯意識を高める。 ○事前に避難訓練の意義を考える防災学習を取り入れ、より充実した避難訓練になった。
		③認知症サポーター講習会	A		
		④地域清掃等を行う勤労体験	B		
		⑤マニュアルに基づく危機管理	B		
		⑥消防署と連携した避難訓練・安全講習	B		
		⑦種目選択別少人数授業	B		
(7) 体力の育成	②体育大会等、校内スポーツ大会開催	B	B	○体育大会で教員の指導のもと、生徒が主体となる運営を図る。予備日の複数日程を設定して実施した。	
	③スキー実習等を伴う修学旅行	A			
	①計画的な健康保持・増進	B			
	②キャンパス・カウンセラーとの協働	B			
	③警察と連携した薬物乱用防止、安全指導	B			
	④WBGTに基づく熱中症対策	B			
(4) 健康の増進	⑤生徒(保健委員会)による啓発活動	B	B	○研修を実施し、生徒にカウンセリングマインドを持って接することにつながった。 ○WBGTを意識することにより、危機管理意識が習慣づけられた。 ○生徒保健委員より教室換気の呼びかけを行い、生徒の健康に対する意識が高まった。	
	①国際交流等、学校行事への支援・協力	B			
	②登校指導等、教育活動への支援・協力	B			
	③広報誌『北陵』による情報発信	B			
	④懇談会等、PTAと学校の情報共有	B			
	⑤生徒が主導するオープン・ハイスクール	B			
イ 地域への情報の発信	②保護者や地域に向けた公開授業	B	B	○オープン・ハイスクールについて、生徒が司会、学校生活の説明を主体的に行うことにより、達成感自己有用感を感じ取らせることができた。 ○学校評議員会を行事とともに定期開催し、学校評価の公表を分かりやすく実施した。	
	③学校評議員会の定期開催	B			
	④分かりやすい学校評価の公表	B			
	①訪問指導(地歴・公民科、人権教育)	B			
	②外部の授業研究会への参加(国)	B			
	③生徒理解を深める校内研修会	A			
ウ 学校の組織力・教員の資質能力の向上	④人権意識を高める校内研修会	B	B	○主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、県教委、市内高校、中学校等と連携した多様な授業研究を実施した。 ○公開授業週間で職員間の授業参観、教科を越えた交流を促進し、教員の資質向上を図った。	
	⑤生徒指導便り、学年通信等の配布	B			

5 自己評価への関係者評価

●北陵の魅力ある素晴らしい取組をより多くの中学生、保護者、学校関係者に知っていただくことが学校の活性化に大切であると考えている。  
 ●知らない仕事を知っていく。進学先の選択肢の多様性について。大学院への進学や社会人になってからの進学を含め、方向変換も可能であることを生徒に情報提供していただきたい。  
 ●特色類型発表会を参観したが、英語での発表もあり、しっかり発表していた。完成度の高いプレゼンテーションを見ると、中学生や保護者もぜひとも入学したいとの希望を持つだろう。  
 ●第一次発展的統合校の発表後、塾や保護者間で次の統合では川西北陵がなくなるという情報が流れ、受験をやめたり意気消沈している中学生がいたりしていると聞く。正しい情報提供があればと思う。

●ICTを活用した学習、授業は生徒、教員の運用能力の差が大きく、広く定着するのは時間がかかると思う。

●地域との結びつきを大事にし、地域とともに生きる学校づくり。日本一の伝統的な里山と日本一の先進的な里山を持つ川西の良さ(持っている力)を活用してほしい。

●社会人として求められるプレゼンテーションの力を育む場を、この時期に実施されている。説明されることで内容を確認でき、学んでいる内容を知ることができた。

●高校でも学校行事等、学校の事業のスリム化を進め、縮小の方向へ保護者に理解を求めて進めてほしい。

●東谷コミュニティ、大和自治会や地域の活動に計画や企画から生徒たちが取り組んでいる。さらに高校生が地域と協働できる可能性があるのではないかと。

●交通マナーアップキャンペーンへの参加はありがたい。高校生の登校マナーは向上してきているが、継続してより良いマナーを目指してほしい。

●北陵の魅力ある素晴らしい取組を、より多くの中学生、保護者、学校関係者に知っていただくことが学校の活性化に大切であると考えている。

●地域の中学校との各教科を連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を引き続き進めてほしい。

●メール配信アプリの導入で、保護者への情報発信と教員の働き方改革が進めばよい。

●オープン・ハイスクールを生徒主体で行っていることが素晴らしい。学校の魅力が上手に伝わっている。

●最高の宣伝は在校生、卒業生の口コミだ。効果は絶大である。生徒が満足する教育内容を提供しているか教員は常に、自己チェックが必要だ。

●自己表現力は本当に重要だと思う。自分の感情をきちんと相手に表現でき、コミュニケーションや人間関係を高められて、社会人として財産となるような力を身につけていると思う。

A : 3.4以上  
 B : 3.0~3.3  
 C : 2.9